

14 歳の本音とは？

NHK「中学生日記」の 制作者に聞く

怖いのは「うざい」と思われ 友達グループに入れられないこと



NHK「中学生日記」は現役中学生への徹底取材から生まれます。チーフ・プロデューサーの田熊邦光さんに、子どもたちと接するなかで感じる現代の中学生像についてお話を伺いました。



台本。ドラマには228人の中学生が交代で登場する

ドラマの中にだけ存在する名古屋市立東桜中学校を舞台に、中学生のリアルな日常を描く「中学生日記」。生徒役の228人は、番組を制作するNHK名古屋放送局近郊に住む普通の中学生です。

「中学生日記」に原作や脚本はなく、毎回オリジナルです。毎週、子どもたちにアンケートや取材を行うことから始まり、今一体どんな気分なのか、身の回りでどんなことが起こり、それに対して自分はどう感じるかなど、本音を徹底的に聞き出して番組を作っています」と田熊邦光さん。子どもたちを集めて、とにかく話を聞く。気になることは、理解できるまで質問攻めにすることも度々で、そこから見えてくる子どもたちの世界があると云います。

「普段はおとなしいのに、プロフを書き込む時は攻撃的になる子がいる。大げさに書くことみんなが目指してくるから、どんどん違う人間を演じてしまうそうです。学校へ行かなくなったり不安があるか聞いたら、朝起きて今日一日何をしようと思う瞬間だという。大人が考えがちな将来に対する不安じゃないんです。子どもたちと話していると、何かひっかかる一言というのがあって、そこを見逃さないようにキヤッチし、掘り下げて聞いていくことで出てくる話がたくさんあります」。子どもたちは親や教師には話さない心の内を、驚くほど素直に語ってくれると言います。それらを題材に台本が書かれ、子どもたちはカメラの前で自分自身に向き合う作業をしながら、登場人物に気持ちを置き換えて演じていきます。

「性」をテーマに「生」を考える講座も

「性」に関する情報は、授業で学び、情報もあふれているのに、きちんとした知識を持っている子が少ない。NHK「中学生日記」は現役中学生への徹底取材から生まれます。チーフ・プロデューサーの田熊邦光さんに、子どもたちと接するなかで感じる現代の中学生像についてお話を伺いました。

「性」に関する情報は、授業で学び、情報もあふれているのに、きちんとした知識を持っている子が少ない。NHK「中学生日記」は現役中学生への徹底取材から生まれます。チーフ・プロデューサーの田熊邦光さんに、子どもたちと接するなかで感じる現代の中学生像についてお話を伺いました。



NHK名古屋放送局
「中学生日記」
チーフ・プロデューサー
田熊 邦光(たぐまくにみつ)さん

ピアカウンセラーに聞く

携帯メールで友達と会話!? 自分の気持ちをもっと口にして

大人へと体と心が変わっていく思春期は、悩みを抱えやすい時期。特に性に関する悩みは、他人に相談しにくいものです。そこで、同世代の仲間として悩みに応えたいと活動しているのがピアカウンセラー「びあっ子」です。性や恋愛、友達関係など子どもたちが抱える悩みについて、また中学・高校を訪問して実施している講座についてお話を伺いました。



講座は手作り教材を使い、楽しく進められる

「ピア」は仲間の意味。ピアカウンセラー「びあっ子」は教師や看護師などを目指す県内の大学生、専門学校生で組織され、助産師や保健師などの専門職が集まるNPO法人リプロダクティブヘルス研究会の会員に見守られながら、思春期の若者からの相談に応じています。

平成20年度の相談件数は3770件。相談内容を見ると、男女ともに上位を占めたのは恋愛や友達関係についての相談で、男子からは性欲や包茎など性や体の悩みについて、女子からは人間関係や月経についての相談も多く寄せられています。

「性に関する情報は、授業で学び、情報もあふれているのに、きちんとした知識を持っている子が少ない。NHK「中学生日記」は現役中学生への徹底取材から生まれます。チーフ・プロデューサーの田熊邦光さんに、子どもたちと接するなかで感じる現代の中学生像についてお話を伺いました。

「ピア」は仲間の意味。ピアカウンセラー「びあっ子」は教師や看護師などを目指す県内の大学生、専門学校生で組織され、助産師や保健師などの専門職が集まるNPO法人リプロダクティブヘルス研究会の会員に見守られながら、思春期の若者からの相談に応じています。

平成20年度の相談件数は3770件。相談内容を見ると、男女ともに上位を占めたのは恋愛や友達関係についての相談で、男子からは性欲や包茎など性や体の悩みについて、女子からは人間関係や月経についての相談も多く寄せられています。

「性に関する情報は、授業で学び、情報もあふれているのに、きちんとした知識を持っている子が少ない。NHK「中学生日記」は現役中学生への徹底取材から生まれます。チーフ・プロデューサーの田熊邦光さんに、子どもたちと接するなかで感じる現代の中学生像についてお話を伺いました。

「性」をテーマに「生」を考える講座も

「性」に関する情報は、授業で学び、情報もあふれているのに、きちんとした知識を持っている子が少ない。NHK「中学生日記」は現役中学生への徹底取材から生まれます。チーフ・プロデューサーの田熊邦光さんに、子どもたちと接するなかで感じる現代の中学生像についてお話を伺いました。

「性」に関する情報は、授業で学び、情報もあふれているのに、きちんとした知識を持っている子が少ない。NHK「中学生日記」は現役中学生への徹底取材から生まれます。チーフ・プロデューサーの田熊邦光さんに、子どもたちと接するなかで感じる現代の中学生像についてお話を伺いました。



「びあっ子」のメンバー(70人が活動中)



静岡英和学院大学
人間社会学科 教授
鬼塚大輔さん

トッツィー

監督 シドニー・ポラック
販売元 ソニー・ピクチャーズ
エンタテインメント

「温故知新」という言葉あり。「男女の役割」ってやつを、もう一度考えてみようよ、という内容の映画はたくさんあるし、最近も作られているけれど、やっぱりこの分野では30年近く前に作られた「トッツィー」(1982年)を越えるものはないのでは？

売れない俳優ダスティン・ホフマンがやけを起こし、女装して昼メロのオーディションに出かけたら見事に合格。女優として大成功をおさめるといふ話。名作「お熱いのがお好き」(1959年)これも「トッツィー」同様、アメリカ映画協会選出の「アメリカ映画ベスト100」に選ばれているを始めとする、いわゆる「女装」喜劇というのは、ハリウッドの伝統だ。だが、「トッツィー」が今でも古びていない、今観ても新鮮なのは、「女性」になった男性主人公が、性差に関する差別を経験することで、自分自身が生まれ変わっていく過程が、きちんと描かれているからである。しかも、たっぷり笑わせてくれます。



あざれあ図書室司書
菊川真紀子さん

オンナらしさ入門(笑)

小倉千加子 著 理論社

テレビも学校も家の中も、世の中は「女の子らしく」や「女の子のクセに」でいっぱい。面と向かって言われると、なんだかムッと腹が立ったり、逆に心がしょんぼりしてしまったり…、あなたはこんな経験をしたことはありませんか？

この本は、「オンナらしさ」に隠された秘密のルールを考えることで、あなたのムツとした気持ちや、しょんぼりした心の理由を解き明かしてくれます。「自分だけの好き」を持つことの大切さと、それを見つけ育てる勇気、うっとりという世間をヒラリとかわす知恵を伝授してくれます。

窮屈な「オンナらしさ」に悩む女子だけでなく、「オトコなんだから」にうんざりしている男子にもオススメの1冊です。



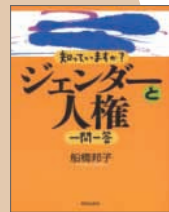
「ねっとわあく」
編集部から

世界人権宣言

谷川俊太郎 著
アムネスティインターナショナル日本支部 著
金の星社

「世界人権宣言」を知っていますか？戦争の悲劇を繰り返さないため、1948年12月10日に国連で採択されたものです。30条にわたり、みんなで守りたい人権のことが書かれています。ただ、その内容は大人が読んでも難しい言葉が並んでいます。世界中の多くの人々に、読んで理解してもらいたいことなのに。その「世界人権宣言」を、詩人の谷川俊太郎さんが絵本にしてくれました。子どもにもわかりやすい表現とおしゃれなイラスト、美しい言葉の響きが、世界中のすべての人々に向けて、大切なことをいねいに伝えてくれます。

静岡市立服織中学校
図書室司書
栃尾裕子さん



**知っていますか？
ジェンダーと人権
一問一答**

船橋邦子 著
解放出版社



おんぶはこりごり
アンソニー・ブラウン 著
平凡社

「男らしくしなさい」とか「女らしく」と周囲から言われることで、不自由な思いをしたことはありませんか？そもそも、「男らしさ」「女らしさ」とは何でしょうか？『知っていますか？ジェンダーと人権 一問一答』は、男女共同参画について、中学生にも分かりやすい、やさしい言葉で説明されている本です。性別にかかわらず、自分らしく、色々な可能性に挑戦できる社会であってほしい…。

そしてもう一冊、これから社会に出て活躍する14歳のみなさんに「おんぶはこりごり」に登場するピゴットさんのおうちを紹介します。ピゴットさん一家は幸せな4人家族。でも、パパや子どもたちの世話に大忙しのママは、うんざりして、とうとう家を出てしまう。ママのいなくなった家は、まるでブタ小屋のよう。そして残されたパパと子どもたちはいつの間にかブタの姿に…。この家族がどうなるのかは、読んでからの楽しみです。

「男女共同参画」はじめての一步!

Books & Cinemas



静岡大学
人文学部言語文化学科 准教授
森本隆子さん

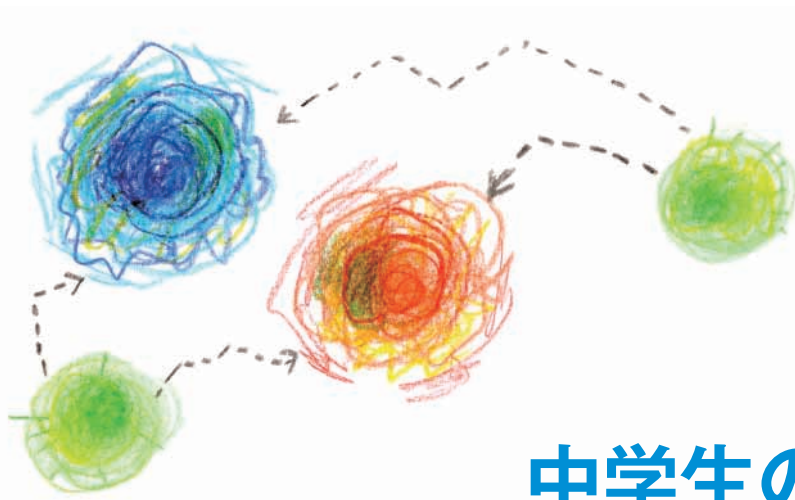
崖の上のポニョ

監督 宮崎駿
販売元 ウォルトディズニー
スタジオホームエンターテイメント

ポニョは魚の子。ふとしたことから宗介に命を救われ、人間の子になって一緒に暮らしたくなったポニョは、魔法で津波を引き起こし、波の先端に乗って、町じゅうを呑み込みながら宗介とその母リサのもとに辿り着く…。

「ボーイ・ミーツ・ガール」の枠に、きれいに収まってしまいそうなチャーミングなアニメには、しかし、それを裏切るような楽しい謎や仕掛けがいっぱい。宗介の父の船乗り耕一は、なぜ作中、一度も陸に上がってこないのか？崖の上には戻らぬ夫を待つリサ、海の中にはグランマンマーレと呼ばれる金色の大魚を妻に持つポニョの父フジモト。そして、宗介の誓いの言葉——「おさかなのポニョも、半魚人のポニョも、人間のポニョも、みんなスキだよ」は、「ポニョ」という存在を、いったん<魚>と<半魚人>と<人間>に切り分けながら再統合しているだろう。

女と男、自然と人間の間に作り出されてしまった亀裂やズレを、ジブリのアニメは美しくも哀しく、我々に問いかけてやまない。



**中学生の性差意識は、
親世代の現実を物語っている**



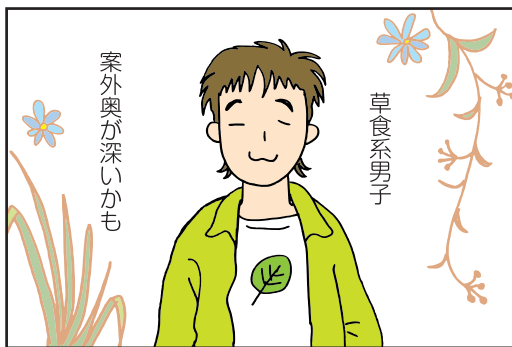
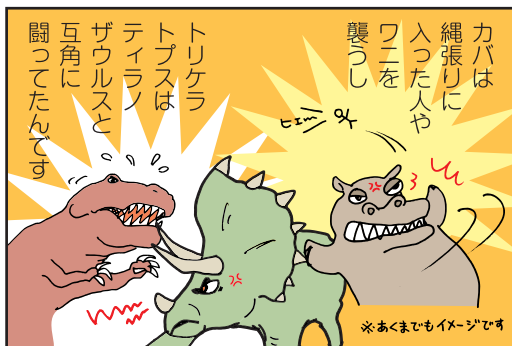
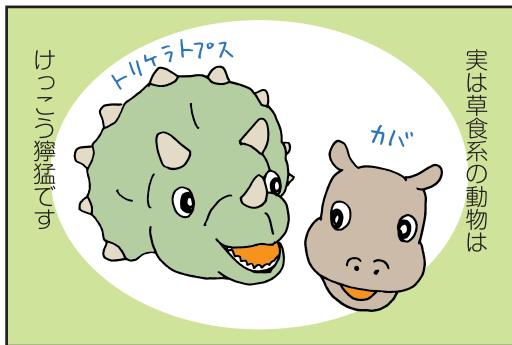
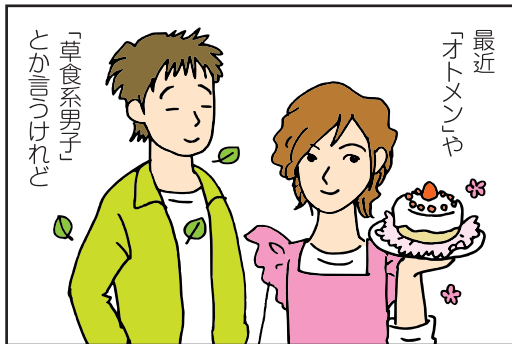
静岡文化芸術大学
文化政策学部
文化政策学科
森 俊太 教授

私は中学生の親世代に近いのですが、ワークシopp「マンガの主人公を通して、性差の固定観念に気づこう」を読みながら、自分が子供の頃に読んだマンガは、「固定的性別役割分担」に満ち溢れていたことに改めて気がつきました。女性のキャラクターが多く、主役は全て男、女はアシスタント的な「お姉さん」役か、お母さんというきまりきった描き方でした。そのころのマンガからは、ワークシoppのマンガに登場する主人公達は想像することすらできません。

とは違っており、警察のエリートはほぼ男性であり、かわいいものが好きなのは女性に多いのです。そしてそのような現実を「当り前で変化しないもの」、「異なるものは、間違いで、変だ」という意識が強くあるのです。実際、6人の中学生の発言やアンケート調査結果からも、14歳の段階で「固定的性別役割分担」意識が形成されていることが分かりました。14歳前後、つまり中学生段階でこの意識があるということは、その前の発達段階で、すでに意識の土台が作られているということです。

家事が大変そう」、「男は仕事がつそう」、「男の人は、色々な責任があつて大変そう」などの意見は、ほぼ、親の姿を見ての切実な感想でしょう。どんな仕事でも、大変できつことがあるのは事実です。しかし、子供の性別意識の調査で、「大変さ」が強調されるのは社会として健全であるとはいえません。

その正体は・・・



55号の感想をお寄せ下さい

- ◆QRコードから
 - ◆E-mail kouryuukaigi@ka.tnc.ne.jp
 - ◆FAX 054-251-5085
- いずれかの方法をお願いします。



編集委員

※左から

西岡あおい
デザイナー
利根川初美
川野泰寛
編集長
増淵礼子
大畑結香
村田美千子
アドバイザー
平野雅彦



編集後記

- NHK「中学生日記」の真正面から中学生に向き合い、悩みを一緒に考えていこうという番組作りに感心しました。子どもたちは辛い過去を思い出しながらカメラの前に立つこともあるそうで、その真剣勝負ぶりに脱帽です。(西岡あおい)
- デザイン担当として編集会議から同席し、時間をかけて丁寧の内容を作っていく過程を見ることができました。アンケートや座談会で14歳と接し、環境を作る大人の責任についても考えるきっかけになりました。(デザイナー・利根川初美)
- 伝達には困難が付きまといます。しかし、身近で具体的なものを例にすれば、少しは容易になるものです。皆様も、今号のように現代社会の中に存在するものから男女共同参画を一度考えてみてはいかがでしょうか。(川野泰寛)
- 中学生へのアンケートや座談会。生まれて十数年で、既にその人の価値観の「核」ができていることを改めて感じました。次世代へ「男女共同参画」のバトンをつないでいくためには、しなやかな価値観をもつ大人がもっと増えないと。(編集長・増淵礼子)
- 55号では思春期で揺れる中学生が、真剣に「平等とは何か」について考えてくれました。私自身大学生という立場ではありますが、彼らの一歩先を生きる先輩として負けないように、この間に日々向き合っていきたいと思います。(大畑結香)
- 成長していくと、なんとなく覚えている言葉が増えていきます。中学生に説明をしようとする、知識の曖昧なことに気づかされます。「男女共同参画」も大人が自分の言葉で語れるようになってこそ浸透していくのでしょうか。(村田美千子)
- ちまたには、いわゆる「14歳本」があふれている。この号はきっとその後追いはないと思われるだろう。だが違う。それは「これまでの総括」であり、次代の男女共同参画社会へ向けての「のりしろ」である。(アドバイザー・平野雅彦)



ねっとわあく

2009/10/1 Vol.55

発行日/平成21年10月1日
監修/静岡県男女共同参画センター
〒422-8063 静岡市駿河区馬淵1丁目17-1
企画・編集・発行/あざれあ交流会議グループ
TEL/054-250-8147 FAX/054-251-5085
デザイン・823design 利根川初美